「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Spring 2013

創刊号 Vol.1

Dogushi 創刊号 2013年5月発行 発行:「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作:NPO法人 いいだ人形劇センター 〒395-0044 長野県飯田市本町1-2 TEL050-3583-3594 FAX0265-52-3594 E-mail:iida-puppet-c@mis.janis.or.jp

特集

はじめまして「いいだ人形劇センター」です

掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

会員募集中!!

NPO法人いいだ人形劇センターでは、センターの目的と活動にご理解、ご賛同いただき、活動を支援していただける会員を募集しています。正会員・賛助会員(いずれも個人・団体)に申し込みいただきますと、季刊情報誌『Dogushi』、公演スケジュール・イベントなどのお知らせを随時配信させていただくほか、会員相互のネットワークを構成します。皆さまのご支援をいただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

—年会費—

正会員 5,000円
(企画を提案できます。総会での議決権あり)

賛助会員 1口 2,000円
(活動を財政面から支えていただきます)

問合せ:NPO法人いいだ人形劇センター
TEL:050-3583-3594
E-mail:iida-puppet-c@mis.janis.or.jp
入会のご案内をお送りします。

Dogushi

並木さんぽ

「胴串」とは、人形の頭の首の下についている棒で心串ともいい、頭の中枢部を担っています。"人形劇のまち飯田"が日本の中心に位置すること、さらには今春動き出した「いいだ人形劇センター」が本拠地となって人形劇や飯田の情報を発信していく、という想いを込めて、季刊情報誌を『Dogushi胴串』と名付けました。次号は7月発行予定。8月開催「いいだ人形劇フェスタ」の情報ほか満載でお届けします。(帆)

表紙イラスト:井原千代子

りんごの花が満開のりんご並木にご当地キャラクターが大集合。「ぽぉ」はみんなに声をかけられて大忙し。人形劇のまち飯田をPRしていました。

人形劇わかる!!用語

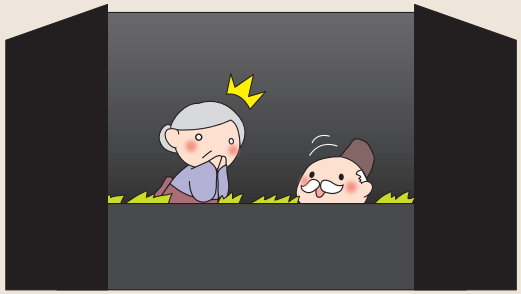
『蹴込み(けこみ)』

人形劇では、人形の舞台となる衝立のことを言います。飯田市の今田や黒田のような伝統的な三人遣いでは、手摺(てすり)と呼んでいます。

演劇や映像の世界でも、平台などの客席から見える側面のことや、それを隠すための物を「けこみ」と呼びます。建築では、階段の垂直部分のところを指すということなので、そこから来ている言葉なのだと思います。

蹴込みの上部は、人形にとっての地面の位置。この高さに人形が保持されなくてはいけないのですが、人形を長時間同じ高さに差し上げているのは結構辛い!慣れないと人形が徐々に下がっていき、ついには「生首状態」になりますので、ご注意を!

(人形芝居燕屋 くすのき燕)



特集

はじめまして「いいだ人形劇センター」です

飯田市は「人形劇のまち」と言われていますが、その実力はまだまだでしょう。いいだ人形劇フェスタは、日本有数の人形劇の祭典として多くの方々に認識されていますが、それが大きい分だけそのほかの人形劇に関する活動がみえていませんでした。人形劇関係者の提言を踏まえて、飯田市は昨年の2月に「人形劇のまちづくりを推進する新たな仕組みに関する方針」を策定しました。この方針を受けて、人形劇関係者が一堂に会し意見交換する場として「人形劇のまち飯田」運営協議会が立ち上がり、課題解決に向けた活動組織として「NPO法人いいだ人形劇センター」が設立されました。

いいだ人形劇センターは、市民・人形劇人・行政が協働できる場として設立されました。市民も劇人もわくわく出来る取組み、これまでは不十分であった専門的な支援、人形劇に関わる人の心の拠り所となれるような活動など、人形劇のセンター的機能を担います。いいだ人形劇センターは、フェスタの守備範囲でない部分をカバーします。極端な言い方をすれば8月のフェスタ以外の期間が主な活動期間となります。

小さなセンターですが、人形劇のまち飯田とともに成長していきたいと願っています。

交流ゾーン

ドコにあるの？どんなところ？

NPO法人いいだ人形劇センターは、NHK人形劇「三国志」でおなじみ飯田市川本喜八郎人形美術館の中にあります。市民の皆さんに人形劇を楽しんでもらい、人形劇をきっかけに飯田地域全体の活性化に結び付けられるようさまざまな企画を考えたり、この季刊情報誌を編集したりしています。

事務所入口前の「交流ゾーン」は来館者のための休憩所としてだけでなく、どなたでも利用できるコミュニティースペースです。人形劇のこと、飯田のまちのこと…いろいろな情報を受発信していきますので気軽にお立ち寄りください。毎週水曜日（祝日をのぞく）は川本人形美術館が休館日のため、正面玄関から左手奥にある出入口よりご利用ください。

NPO法人
いいだ人形劇センター
理事長 髙松和子

365日人形劇が息づくまちを目指して、このほど、川本人形美術館の一室に「NPO法人いいだ人形劇センター」が誕生いたしました。

人形劇に関心をお持ちの方ならば既にご承知かと思いますが、飯田は江戸時代から続く伝統三人遣いの芝居が今なお、春秋には上演されております。小中学生が伝統に、また創作人形劇に取り組み、市民もアマチュア劇団で活動したり、行政の呼びかけのワークショップで制作に、上演にと取組んだりと「人形劇のまち」が次第に目に見えて来たように思います。35年にわたって市民と劇人と行政が一体となって築き上げてきた人形劇の祭典、フェスタを筆頭に興味のある人々がそれぞれに人形劇を通して自己を発揮しようと歩み出したのです。

しかしながら、これらの活動にズームしてみますと、どこも順風満帆とはいきません。「作り方は」「台本は」「操作は」「後継者がいない」「何かいいことあるの」「もっとすごいのはないの」ひいては「そもそも人形劇って何」等々と騒ぎなのです。

センター設立の目的の一つはそうした市民の需要に応えることです。もう一つは、少々交通の便は悪いが、日本のど真ん中の小さなまちが、人形劇のメッカとなり、ひいては世界へと繋がっていけるように魅力的なプログラムを提供していきたいと言うことです。お力添えをお願いいたします。

魅力的なプログラムを発信し、飯田を人形劇のメッカに

わくわくイベントスケジュール

6 JUN

三人遣い人形を体験しよう
6月1日（土）16:30～
会場／川本喜八郎人形美術館　料金／無料
今田人形座の皆さんを講師に三人遣いを体験するワークショップ

江戸の灯りで楽しむ人形芝居 今田人形座「伊達娘恋緋鹿子-火の見櫓の段」
6月1日（土）20:10～
会場／川本喜八郎人形美術館エントランス下 料金／無料

チェコの人形劇に触れる「お面を作るワークショップ」
6月1日（土）・2日（日）いずれも10:00～12:30
会場／川本喜八郎人形美術館 料金／2,500円（材料費込）
林由未さん（チェコ在住の人形美術家）を講師に二日間の連続講座
5月31日（金）19:00～トークショー「チェコの演劇現場」開催

7 JUL

いいだ人形劇フェスタ2013プレフェスタ
現在、楽しいプログラムを計画中

8 AUG

いいだ人形劇フェスタ2013
8月6日（火）～11日（日）
研究会「アジアの人形芝居-伝統と現代、そして未来へ」
企画展示「世界の人形劇映像資料」など予定

わたちゃんのダンボール獅子舞
8月下旬～10月頃
会場／川本喜八郎人形美術館エントランス前
料金／材料費実費
ダンボールで獅子頭を作り、オリジナルの獅子舞を練習

※いいだ人形劇センターでは人形劇鑑賞、人形劇観劇ツアー、人形劇の基礎レッスン、人形劇体験プログラム、子どものための人形劇学校プロジェクトなどを計画しています。詳細は随時お知らせします。

突撃!! 人形劇のゲ・ン・バ Part1

人形の大きさに合わせて背景の高さを調整。講師の吉澤亜由美さん（写真左から二番目）が「このくらい高くした方がバランスいいね」と、板を持ってきてアドバイスしています

飯田で「プロの演出家、美術家のもとで本格的な人形劇をつくる」ワークショップが行われている、との情報をキャッチ。さっそく〝ゲンバ〟をおさえるべく、会場の飯田文化会館へ直行しました！

平日の夜7時過ぎ。ベニヤ板、衣装ケース、ミシン…いろんな荷物を抱えた人が続々とやってきます。昨年12月にスタートし、5月16日に行う集大成の発表公演を目指す週1回の講座に12名が参加。3グループに分かれ、公演へ向けての準備が着々と進められている様子。台本・人形・小道具・舞台セットほか、必要なものすべてを作るため役割を分担し、作業する皆さんの表情はとても真剣です。講師の吉澤亜由美さん（人形美術家）の元へ駆け寄り「人形の頭がぐらつかないようにするには？」「舞台セットの細工をもうひと工夫したい」と尋ね、材料の選び方や道具の使い方などプロの指導を受けます。「みなさん頭の中に完成図が描けていますから、それをカタチにするアドバイスをしています。発表が楽しみですね」と吉澤さん。

演出・脚本・演技指導の講師を務める人形芝居燕屋 くすのき燕さんは「約半年かけて行うことで美術面も学ぶことができました。やはりきちんとしたものを表現できるようになるには手間をかけないと。もちろん技術も必要。観てもらうものをつくるにはこうした積み重ねが大切なんです」と、参加者の皆さんにエールを送りました。

各自作った人形を持ち、全員で上演するプログラムの指導をする講師のくすのき燕さん（写真手前）。音楽に合わせた早い動きに、皆さん驚きを隠せない表情です

人形制作の手を休め、完成した台本を手に台詞を覚えるグループもいます

5月16日に行われた発表公演より「北風と太陽」。人形劇ならではのさまざまな工夫がみられました

朧 人形たちのカーニバル

宇野小四郎【人形劇研究家】

「何が始まった。」

1979年はユネスコの定めた国際児童年であった。全国の多くの自治体では子どものための特別行事を企画した。長野県飯田市でも夏休みの行事として60万円の予算を組み、人形劇の上演をひとみ座に依頼してきた。

しかしこれには理由があった。当時の飯田市長・松澤太郎さんの娘さんが、ひとみ座関連の公益財団法人現代人形劇センターに所属して人形劇について普段から話をしていたからと思われる。ひとみ座としては有難いものの娘のコネで仕事をもらったと思われては沽券に関わる。で、皆でちょっと集まって、ちょっと相談をして名案を思い付いた。こんな時深く相談しないところがひとみ座の特徴なのだ。

そこでひとみ座代表の須田輪太郎さんと僕は、東京に出張していた松澤市長と新宿中村屋でカリーライスを食べながら話をした。市長はうんうん頷いていたが、要領を得ない顔付きであった。でも僕らはこれでGOが出たと決めて、手伝ってくれる世話人を探した。ちょうど都合よく同年8月に東京で「アジア・太平洋国際人形劇祭典」を開くことになって、優秀な人形劇の仲間が一生懸命準備を進めていた。その中からアマチュアのベテラン島村茂治さん、水島秀夫さん、幸田眞希さんに企画に加わってもらった。この3人と須田さん、僕たちは飯田の現地での説明をすることなった。

という訳で人形劇カーニバル飯田の幻の伝説を当てにならない記憶をたどって話すのだが、半信半疑でお聞きください。

（つづく）

宇野小四郎
人形劇団ひとみ座創立メンバーで、（公財）現代人形劇センター元理事長。現在、銀の鈴舎主宰。人形劇の上演・演出・出版事業等、多岐にわたり活躍している。

Library Cafe 飯田とつながる 世界の人形劇図書資料から①

1997年9月、フランスの「シャルルビル・メジェール世界人形劇フェスティバル」で開催された大規模展覧会で、好評完売となった図録。展示には飯田市からも今田、黒田などの人形かしらほかが多数出品され、姉妹都市（88年締結）としての存在を示した。「人形劇の図書館」も人形芝居を描いた浮世絵など数十点を出品した。シャルルビルではプロデューサーが毎回企画を練った大小様々な人形劇の展覧会があり、何百もの上演とともにフェスの基幹を成し、連日繰り広げられるページェントも併せ、世界最高峰の人形劇フェスの楽しさがあり、いいだ人形劇フェスタが学ぶ点はまだたっぷりある。

（「人形劇の図書館」 潟見英明）

「Marionnettes en Territoire Japonais」
（人形劇 日本の領域）展示図録 88頁 フランス国際人形劇研究所 1997

楽しい仲間がやってきた

『ボコペン森の魔女』『和尚さんと小坊主』など、植松さん手作りのユニークな表情の人形たち

旅するネズミを、歯が痛い腹ペコのネコが行く手を阻むお話の『チューと虫歯ネコ』

人形劇団なむなむ

植松敏明さん

人形劇を始めて40年余。大学時代、児童文化部のクラブ活動がきっかけでした。就職先となった飯田で出会った仲間と結成した「人形劇団なむなむ」。現在は植松さん一人で活動しています。「スポットライトを浴びて思いっきり声を出すことの快感。自己表現ができることのおもしろさ。一度味わったらやめられないんだよ」と、目を輝かせて話す植松さん。飯田市内の保育園や図書館、全国各地の人形劇イベントなどで上演を続けています。

数年ぶりに新作に取り組んでいるという植松さん。「演じられるうちは続けて、人形劇だからこそのおもしろさを伝えたい。その後はよい観客になりたいね。観ることによってプロ劇団の作品に関われると思うから」。

いいだ再発見「黒田人形舞台」の巻

4月の奉納上演「御所桜堀川夜討 弁慶上使の段」より

太い梁が目を引く堂々たる建物は、江戸時代から飯田市上郷に継承される「黒田人形」を上演するために造られた専用の舞台。毎年4月に下黒田神社の春祭で行う奉納上演にのみ使用される特別な舞台です。

二階建てのうち一階が〝船底〟と呼ばれる舞台になっており、下段・中段・上段を外題（題名）の場面ごと使い分け、何十枚とある背景画を巧みに使って臨場感を出します。かつては舞台後方の戸板を外して周辺の景色を取り込んだ借景での上演もしていました。

「本格的な造り、古さ、大きさが三拍子そろった全国でも珍しい舞台。ここで上演できることを誇りに思います」と黒田人形保存会会長の髙田正男さん。

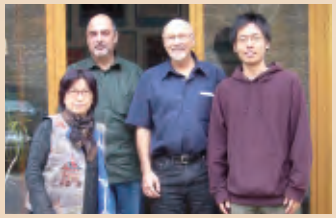
約300年もの間途切れることなく地元の人たちによって受け継がれてきた人形浄瑠璃、約160年前から大切に守られてきた舞台。先人から続く郷土芸能への愛着と熱意が、今もなお息づいています。

宝暦年間に建てられた後、天保11年（1840）に再建されたのが現在の「黒田人形舞台」。間口8間、奥行き4間、総二階建て瓦葺き出桁造りの建物は黒田人形の上演以外には使用しない。国の重要有形民俗文化財に指定されています。

日本ウニマ通信 世界みてある記①

ウニマとシャルルビル・メジェール市

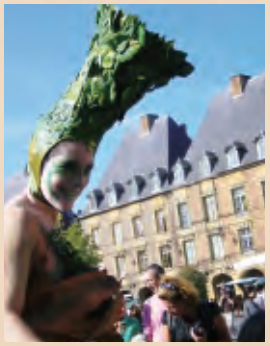
日本ウニマ会長●おなぎたみこ



シャルルビル・メジェールのウニマ本部前にてウニマ会長・ダディ氏（写真左から2番目）、事務局長ジャック氏と。写真左が筆者

ウニマ（国際人形劇連盟）は1929年に発足。プロ・アマチュア・研究者・愛好家が集まり現在約90カ国が加盟している人形劇の国際組織で、日本ウニマ（ウニマの日本センター）は1967年に発足しました。

ウニマの本部はフランスのシャルルビル・メジェール市に置かれ、飯田市は同市の友好都市です。同市では、1961年から定期的に「シャルルビル・メジェール世界人形劇フェスティバル」が開催されていて、今年で17回目。4年に一度開催されるウニマ世界大会と併行して行われる「世界人形劇フェスティバル」と並ぶ大きな規模の二大フェスティバルで、人形劇の室内、野外での上演のほかに、展示会・シンポジウム・ワークショップが行われますが、とりわけ大きな人形のパレードはこのフェスの目玉とも言えるでしょう。



「樹の人間」がデュカール広場に出現（2011）

普段は静かな町ですが、ウニマ本部、国立人形劇芸術高等学院、国際人形劇研究所をもつ同市ならではのプログラムで500を越える舞台が繰り広げられ、世界中から集う人形劇関係者と市民で溢れます。このフェスティバルの中心地デュカール広場は野外人形劇、メリーゴーランド、数々の出店、ストリート・パフォーマンスで終日賑わいを見せます。宿泊はもちろん世界中の参加者が集まりますので、確保はお早めに。

2011年開催の「シャルルビル・メジェール世界人形劇フェスティバル」ポスター。17回目となる今年は9月20日～29日に開催される